

理研における知財戦略の 取り組みおよび今後の展開

平成15年12月
独立行政法人理化学研究所
主任研究員 川合真紀

理研が生み出した成果の一例



アルカリセルラーゼの製法
(洗剤)

特許出願 :S46年
製品化 :S62年

合成洗剤の
市場規模 1900億円^{注1}
の中核商品



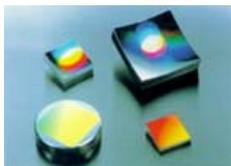
筋肉・神経系作用アミノ酸組成物
(スポーツ・フィットネス飲料)

特許出願 H元年
製品化 H7年

アミノ酸飲料の
市場規模 1600億円^{注2}
の中核商品



アルカリセルラーゼの製法 (洗剤)



エシレット格子の製法 (分光器)



電子ビーム露光装置



筋肉/神経系作用アミノ酸組成物

理研が生み出した成果の一例 直接的貢献

創薬

重工業
等

化学産業

情報産業
等

間接的貢献

ハード面

世界最先端施設の整備



SPring-8



大規模NMR施設

工学

物理学

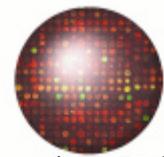
化学

生物学

医科学



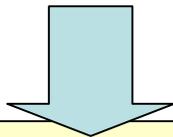
タンパク研究



ゲノム研究

理研の行う研究活動 我が国の産業の基盤に貢献

- 理研精神 = 大河内精神」の承継・発展
 - 研究者の自由な発想に基づく〈基礎科学研究を推進
 - そしてそれらの基礎研究の成果が様々な産業技術につながる
 - これにより、有為の研究者を数多〈輩出。破格の成果をあげるとともに、多くの企業が誕生。



理研コンツェルンから始まった企業

リコー、理研ビタミン、科研製薬、理研食品
理研香料、理研電線、(株)リケン、
理研テクノス、理研電線、理研計器 等 多数



大河内正敏
科学者、経営者、子爵

東京都生まれ (1878 ~ 1952年)

(財)理研の第3代所長。自らの理論を実践し、科学を工業と一体化させた産学複合体である「理研コンツェルン」を完成させる。日本の多くの分野の科学者たちの自由な研究を支える。

さらなる知財戦略の強化に向けて

- 世の中に見える理研「戦略」
- 産業との連携強化

新たな連携システム構築

- 出口を意識した新たな取り組み
- 脱リニアモデル：**スピード重視**
- 研究**企画段階**から理研と企業で協同
 - 研究チームのリーダーは企業から
- 企業秘密を適切に保護
- 成果共有、特許は可能な限り独占的实施許諾

知的財産の質を高め効率的な技術移転に向けて

1. 知的財産の創造

基本特許への挑戦

・マーケットを意識した特許の掘り起こし

2. 知的財産の保護

先端研究のラボノート(実験ノート)の重要性
途上国とのパートナーシップの構築に向けて

3. 知的財産の活用

特許を見極め、捨てる勇氣
脱リニアモデル : スピート重視

4. 人材育成

新たな人材活用。研究者を目利きとして
活用する新しいキャリアパス

現在の取り組み

中期計画において質も考慮した数値目標の設定

論文の数だけでなく、研究分野で重要かつ共通性の高い論文を5割以上
特許出願を増やすだけでなく、その質を重視（特許の実施化率 12%を目標）

具体的施策

知的財産の創造

- ・**パテントエンジニア**スタッフを配置し特許の掘起し、発明相談等を実施
- ・研究所内で特許セミナー、補償金制度を充実

知的財産の活用

実用化の促進

- ・民間企業への情報発信：パテント情報誌の発行
- ・ライセンス契約の専門家の配置（**実用化コーディネーター**）

理研ベンチャー制度

- ・戦前には60社を超える企業群を興した「理研精神」の承継・発展
- ・**研究者が自ら研究成果を商品化**する理研ベンチャーを支援。現在 15社。

パートナー制度

- ・タンパク3000プロジェクトの成果を産業界へ効率よく移転
- ・**研究企画段階**から企業と手を組み、**同時進行**による研究分担